共同運営部門：手術センター

＜スタッフ紹介＞

役　　職	スタッフ名
センター長 麻酔科主任部長	小林　俊司

＜関連部署＞

部署名	部署名
麻酔科	外科系各科
腎臓内科	血液内科
臨床技術部門臨床工学	

＜特色と概要＞

手術センターは4階に手術室6室を有し、手術センター運営委員会が管理、運営している。主な関係部署としては、手術センター、麻酔科、手術を行う外科系各科、腎臓内科（シャント関連の手術）、血液内科（骨髄採取）、臨床工学があげられ、場合によっては臨床検査技師、薬剤師、助産師、事務、通訳等の職種や、小児科、循環器内科などの医師とも協働している。2023年度は、手術センター運営委員会委員長の小林麻酔科主任部長が手術センター長を務めた。手術室看護師は、南昌子看護師長、桑原深雪副看護師長、大野博美副看護師長を含め31名からなり、予定、緊急手術の全てに対応している。

手術室は6室のうち5室を予定手術用とし、原則として1室は緊急手術用に空けている。当センターには、泉州広域母子医療センター、心臓・血管センター、脊椎センター、人工関節センターなどが存在し、緊急度の極めて高い緊急手術が頻繁に発生するため、このような措置をとっている。

2023年度の予定手術枠は、以下の通りであった。

	月		火		水		木	金	
1	外科		外科		外科		整形外科	心臓血管外科	
2	外科		口腔外科		外科		形成外科	脳神経外科 （血液内科）	産科
3	整形外科		脳神経外科		泌尿器科		外科	形成外科 （第1・3週） 泌尿器科 （第2・4・5週）	外科 （第1週） 泌尿器科 （第2～5週）
4	心臓血管外科		耳鼻咽喉科 ・頭頸部外科		外科 泌尿器科 （第2週）	産科	心臓血管外科	外科	泌尿器科
5	整形外科	産科	準緊急	形成外科	耳鼻咽喉科 ・頭頸部外科	口腔外科 耳鼻咽喉科 ・頭頸部外科 （第4週）	耳鼻咽喉科 ・頭頸部外科	救急科	腎臓内科
6	緊急		呼吸器外科		緊急		緊急	緊急	

＜実績＞

2023年度の月別総手術件数および麻酔科管理件数を図1に示す。COVID-19の流行により、不要不急の手術を控えた期間があったためと、麻酔科常勤医数が減ったため、手術件数は減少した。年間総手術件数は3,309件、麻酔科管理症例数は2,702件であった（アンギオ室内の手術は含まず）。

2023年度の月別手術室利用率は、手術室利用時間によるものより手術枠の実使用率の方がよいのではないかとの意見があり、利用時間から枠の実使用率へと変更された。手術室利用率を利用時間で算出した場合、手術をダラダラと長く行った方が、短時間で終わらせたよりも高評価となってしまうという矛盾があり、このような改訂がなされた。

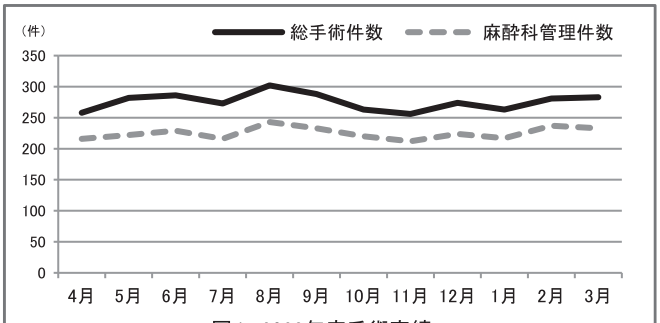


図1　2023年度手術実績

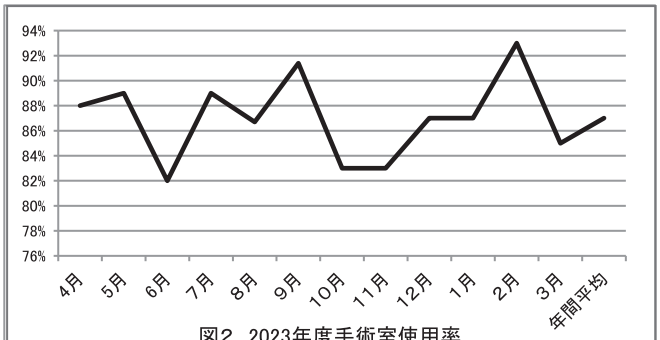


図2　2023年度手術室使用率

＜今年度の反省と来年度への抱負＞

2020年1月頃から世界的に流行したCOVID-19は、当院麻酔科、手術室にも大きな影響を与えた。さらに2021年度にはそれに加え、麻酔科常勤医数が減少し、非常勤医で補填したことも、手術数減少の原因となった。しかし2022年度には、COVID-19の影響も限定的となり、また麻酔科常勤医数も増加し、手術数は回復のきざしを見せ、2023年度にはほぼ元通りの手術数を回復することができた。また2023年度には、申し込まれた手術はほとんど受け入れ、大きなアクシデントもなく終えることができた。

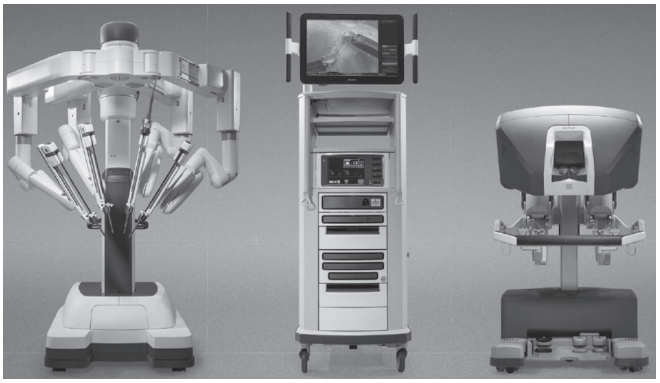
2023年度には、年々ニーズの高まる手術数に対応すべく、当院始まって以来初となる手術室の増設に踏み切る決断をした。また増室される手術室はハイブリッド手術室（手術台と心・血管X線撮影装置を組み合わせた手術室）とされ、TAVI（経カテーテル的大動脈弁植え込み術）なども施行できる手術室になることが決まった。ただし6部屋しかない手術センターにとって、1部屋の増設は非常に大きな意味を持ち、ハイブリッドではない普通の手術を受け入れる汎

用性も必要不可欠な要因である。この条件を満たせるような手術台を検討・導入するとともに、オープンした際手術を行う診療科の予測・選定、必要な機材の準備、看護師・麻酔科医の増員など、多岐にわたる問題を検討し解決した。

また近年増えてきた「ロボット手術」の導入も行われた。ロボット手術とは腹腔鏡手術を更に進化させたもので、手術器械をロボットアームに固定し、術者がサージョンコンソールと呼ばれる場所に座って操縦し、ロボットアームや手術器械を遠隔操作する手術方式である。診療科としては、消化器外科と泌尿器科がまず導入した。症例数も順調に伸び続けている。

2024年度には、1部屋増えた手術センターとして、歴代最高の手術数を記録したい。また新しい手術である、TAVIやロボット手術などの数も増やしていきたい。一方、COVID-19はいまだ燻り続けており、感染対策を引き続き厳とする方針である。また手術センタースタッフが疲弊しないよう、ワークライフバランスに注意しながら、運営していきたい。

ハイブリッド手術室（パンフレットより）



手術支援ロボット　da Vinci Xi（パンフレットより）